

人のうごき

平成24年11月届出分を掲載(希望者のみ)

おたんじょう

三浦 光誠 <small>こうせい</small> くん	(一孝・葵)	南1の2
高木 一輝 <small>かずき</small> くん	(俊和・未来)	南1の4
中島 悠那 <small>ゆうな</small> ちゃん	(雅行・美幸)	南1の5
西山 六花 <small>りっか</small> ちゃん	(卓・可奈恵)	南町
二口 蒼大 <small>そうた</small> くん	(義美・千尋)	南町
中嶋 倫子 <small>りんこ</small> ちゃん	(清太郎・珠理)	天売

ごけっこん

高橋 佑介 <small>ゆうすけ</small> さん	白川 沙織 <small>さおり</small> さん	北大通
------------------------------	-----------------------------	-----

おくやみ

櫻井 辰夫 <small>たけし</small> さん	60歳	港町
吉松 保 <small>たけし</small> さん	81歳	南4の2
石崎 茂 <small>しげ</small> さん	89歳	南大通3
武田 アキ <small>あき</small> さん	102歳	南大通4
佐藤 菊太郎 <small>きくたろう</small> さん	91歳	南大通6
宮川 きみ <small>きみ</small> さん	96歳	栄町
秋山 フサ <small>ふさ</small> さん	96歳	栄町
竹林 功 <small>こう</small> さん	71歳	栄町
中野 繁敏 <small>しげとみ</small> さん	73歳	寿町

人口と世帯数(11月末)

人 口	7,876 人	(- 15)
男	3,736 人	(- 7)
女	4,140 人	(- 8)
世帯数	3,813 世帯	(- 11)
	() は前月比	



羽幌と天売・焼尻を結ぶ航路の元船長

九谷 武久たかひこさん (73才・港町1)

今も、自然と海を見てしまいます。
船や港の安全を
いつも心に願って。

「昔は家の前が羽幌川の河口で、漁師の船が並んでたんです。川が切り替わる前さ。親父が漁師だったから、子どもの頃から海は遊び場だった。漁に出る船に勝手に乗って行ってよく怒られたものです。そつ語るのは、離島航路の「天羽丸」や「フェリーおろろん」などの元船長九谷さんです。

「羽幌が島への玄関口となつた昭和44年から30年間、船長を勤め、また、西防波堤にある灯台の監視にも従事。航路や港を支えられました。」
「漁業の後を継ぐべくエビ桁の船頭になってたんですが、天羽で大型船の免許をもった人が必要って、誘われたんで、以前より一回り大きい新しい天羽丸を島根県の造船所から羽幌までもってきたさ。」
「離島ブームの頃はすごかった。夏の土日は毎回超満員のお客さんでお祭りみたい賑わってたからね。臨時便を出して洋上結婚式やったのもいい思い出かな。天羽丸の最後の時、島の港に寄つたら、島の人達が船に今までありがとうって、楽器演奏したりテープで別れを惜しんでくれて、その姿忘れられないね。」

「船や港をどう守るか常に考えてたさ。退職してから船には乗ってないですが、やっぱり海は気になりますよ」と、穏やかなに話してくれました。

今月のはぼろ人は九谷さん「天羽丸」から「フェリーおろろん」「高速船さんらいなあ」と航路の歴史に大きく関わってきた方です。港近くのお宅でお話を伺いましたが、船の欠航の判断の難しさや、時化の時の運航の大変さなど、貴重なお話ばかりでした。

「天羽丸」と言えば、フェリーや高速船になる前の天売・焼尻航路の船ですが、「てんぱ」という音の響きに、ふるさと羽幌への懐かしい想いを感じるの、私が昭和の世代だからでしょうか。今でも、今日、天羽出る、とか言つ方もいると思うのですが、「天羽ってなに?」という若い方も多いようです。今月から「羽幌港のあゆみと新たな姿」をシリーズで掲載しますので、ぜひ読んでください(6頁参照)(M)

編集後記

